過疎農村地域におけるスポーツネットワークを通じた地域づくりに関する研究

A Study on Community-planning using Sport-network services in under populated Rural Area

斎尾 直子^{*} 宮川 大介^{*}

Naoko SAIO^{*}, Daisuke MIYAGAWA^{*}

^{*}筑波大学 大学院システム情報工学研究科

^{*}University of TSUKUBA

I 研究の背景と目的

少子高齢社会の問題が深刻化しており、過疎の進行も著しい農村地域では、特にこども達に対し、充実したスポーツ環境を提供していくことが困難な状況にある。児童生徒数の減少に伴うあそび仲間の小規模化や学校部活動の廃止等は、地域の子育て環境整備の問題点の一つとして挙げられる。

農村地域の小規模校^{注1)}では、小学校は複数年合同の体育授業実施、中学校はスポーツ種目の選択肢が2種目のみ等、スポーツ環境は充分ではなく、「競技可能なスポーツ種目が少なさ」「活動仲間の小規模化」が小中学校統廃合^{注2)}の理由となる場合も少なくない。都市部と比較すると施設・組織・指導者に多様性がなく、こども達の環境にとどまらず大人にとっても、活動種目と機会が限られたものにならざるを得ない。地域における楽しみ行事・コミュニティの場として従来機能してきた運動会やスポーツ大会等も、少子高齢化の進行に伴い縮小・廃止となる地域が増える傾向にある。

一方で近年、都市・農村という立地にかかわらず、スポーツを通じて親子のふれあいや地域の人々との交流を促進し、健康で活気ある地域づくりを行うことの重要性が再認識されてきている。文部科学省の総合型地域スポーツクラブ^{注3)}をはじめとし、地域密着型のスポーツネットワーク事業が普及しつつある。これらの動きは、住民が日常的に行動可能な圏域内で、レベルに応じた多様な種目を楽しみ、生涯にわたり継続的にスポーツに親しむことができるような環境づくりを目指している。

従来の小中学校区（昭和の大合併以前の旧町村自治会域程度）の徒歩圏内で、もはや多種多様なスポーツ参加が困難な過疎地域であっても、近隣自治会・学校区と機能的に連携することにより、徒歩圏より広い日常行動圏域全体として充実した活動環境整備が行える可能性がある。

本稿で扱う「スポーツネットワーク」とは、ある日常行動圏域内において、スポーツにおける多目的の活動提供と多世代の参加実現を目指し、公・民複数の関連組織が協力連携を行う際の組織間相互の関係、その全体を指す。

これまで、生涯学習活動における市町村相互の連携関係に関する研究¹⁾、スポーツ活動・組織活動事例やスポーツ振興としての研究報告²⁾⁻⁴⁾等の蓄積はあるものの、農村計画分野において、農村地域における子育て環境整備といった視点でのスポーツネットワーク研究は数少ない。

今後、特に過疎農村地域において、スポーツ環境の充実を検討していく場合、種目や目的等の多様なニーズに応えつつも、世代を超えて様々なスポーツを楽しみ、地域住民が気軽に相互交流の場を持つことを目指すスポーツネットワーク整備は、地域づくりの一手法と捉えられる。

このような背景を踏まえ本研究は、少子高齢化が深刻な過疎農村地域における地域づくりの一環としてのスポーツネットワーク整備を分析・考察することにより、その有効性の検討と今後の課題抽出を行うことを目的としている。

方法は、まずⅡ章において、全国の様々なスポーツネットワーク事例から、農村地域がおかれて

いるスポーツ活動環境を把握し、位置づける(表1・調査①)。次にIII-IV章で、ネットワーク整備により地域活性化を図る一農村地域を対象とした詳細調査により、ネットワーク構造・体制、ネットワーク環境を利用する地域住民からみた参加状況や地域づくり効果を明らかにする(表2-4・調査②③)。

表1 調査①: 全国のスポーツネットワーク事例調査概要

調査方法	ヒアリング調査(2005年5~11月)
調査対象	対象スポーツネットワーク・各団体の組織代表者(9件) 注4) 都市・郊外: 神戸アスリートタウンクラブ (A-a地域) NPO法人加古川総合スポーツクラブ (A-b地域) スポーツクラブ21あかし (A-c地域) 向陽スポーツ文化クラブ (A-d地域) WASEDA Club 2000 (A-e地域) かしまスポーツクラブ (A-f地域) 農村: スポーツクラブ21はりま (B-a地域) 木曽ひのきつちゅうゆうクラブ (B-b地域) 南木曽町スポーツ少年団 (B-c地域)
調査内容	○基本情報(発足経緯、活動内容、組織規模等) ○クラブの個性・特徴 ○地域内ネットワークに関して

表2 対象農村地域(B-b地域)の概要

所在地	長野県木曽郡上松町
面積	16847ha
人口	5974人(2005年)
高齢化率	32.5%(2005年)
ネットワーク名	木曽ひのきつちゅうゆうクラブ
運営主体	教育委員会(自治会、体協)
活動内容	72種類
特徴	3~8歳までのスポーツを推進 豊富な総合学習活動 放課後支援事業との協働 上松中学部活動との連携

○定期スポーツ活動(41種)
ジュニアスポーツ(12)
一般スポーツ(29)
○行事・イベント(31種)
スポーツ教室・イベント(10)
自然体験(4)
地域活動(3)
健康・体力向上(8)
指導者育成(2)
運営・広報(4)

表3 調査②: B-b地域ネットワーク構造・体制調査概要

調査方法	ヒアリング調査(2005年8~11月)
調査対象	B-b地域で運営、指導に関わる組織担当者(計6件)
調査内容	○基本情報(活動内容、組織規模等) ○クラブ・住民・地域間のネットワークに関して ○活動上の課題

表4 調査③: B-b地域住民アンケート調査概要

調査方法	アンケート調査(無作為抽出・2005年10月)
調査対象	上松町住民(配布数:500 回収数:422 有効回答率:84.4%)
調査内容	○基本情報(年齢、性別、行動圏等) ○関わり方の違い(参加、指導、運営等)によるクラブへの参加状況 ○スポーツ活動に関して(活動状況、理由等) ○スポーツを通じた地域づくり効果への評価(4分野20項目)
有効票数(年代別)	~20代 30代 40代 50代 60代~ 44 76 124 96 82 (10.4%) (18.0%) (29.4%) (22.7%) (19.4%)

表5 対象9地域のネットワーク事業運営概要

地域分類	都市・郊外				農村			
	広域連合型		狭域独立型		大規模拠点型		拠点ネットワーク型	
立地	兵庫県神戸市	兵庫県加古川市	兵庫県明石市	東京都杉並区	埼玉県所沢市	茨城県鹿嶋市	兵庫県播磨町	長野県上松町
運営主体	NPO、民間団体	NPO	自治会	自治会	大学	NPO、市	NPO、教育委員会	教育委員会、自治会
拠点施設	市内(各小学校)	市内(各小学校)	市内(各小学校)	中学校周辺地域	市内	市営体育館	町内	町内
会員数	7843人	5058人	6004人	1051人	1296人	1045人	6192人	886人
特徴	・民間団体、企業チームとの連携 ・広域での活動が可能 ・市域との連合組織体制 ・地域内に充実したスポーツ環境		・自治会、学校との連携 ・学校区ごとの独立した活動		・民間団体、企業チームとの連携 ・郊外の大規模スポーツ施設の利用 ・比較的広域での活動 ・地域内に充実したスポーツ環境		・学校との深い結びつき、活動は主に小・中学校を利用 ・活動範囲は町内 ・地域外との連携により、施設の不足を補完 ・地域内の既存組織との連携が強く、地域外との連携も密	

II スポーツネットワーク環境の地域特性

様々な範疇、形態でスポーツ活動に関するネットワーク構築が計られている9地域^{注4)}について、連携実態を表5に示す(調査①より)。

1. 都市・郊外地域の特性

圏域と活動拠点性からみたネットワーク構築の形態により、小中学校区や自治会範疇を基本活動域とする「狭域独立型」「広域連合型」、大規模スポーツ施設を拠点とし市域全体を活動域とする「大規模拠点型」と大きく3分類し、考察する。

「狭域独立型」「広域連合型」は、徒歩圏の学校区や自治会域の中で関連組織が連携を取りながら活動を行うことは共通しているが、後者はそれら複数の基本活動域を統括する連合組織が存在する点が異なる。「広域連合型」は、各基本活動域ごとの特性を活かし独立した活動を維持しながらも、市域全体を統括する連合組織を通じてネットワークを構築し、自治体全域として充実したスポーツ環境づくりを行っている。

また、「大規模拠点型」は大学や企業チーム等の高機能スポーツ施設が拠点となり、自治体全域を対象としたスポーツ環境をつくっている。大学や企業チームの主導と活用、NPO・民間団体による運営等を組み合わせた手法ということができる。

2. 農村地域の特性と課題

一方、農村地域の3事例とも、自治体教育委員会を主体とし、小中学校や町営体育館等の活動拠点を使い分け、学校と自治会、近隣町村相互が緊密な連携を取りながらネットワーク構築を行う「拠点ネットワーク型」である。都市・郊外と比較し、連携可能性のある民間スポーツ施設や企業は少なく、活動施設の規模や設備、指導人材は充

分ではないが、町内全域を日常基本活動域とし、郡程度の広域圏内市町村どうしが連携することで単独狭域での不足機能を補完しあい、スポーツ環境の整備に努めている。学校の部活動と地域スポーツクラブの一体的な運営や、学校組織と地域組織との緊密な連携による事業全体の運営状況が、農村地域の大きな特徴といえることができる。

B-a, B-b 地域はこどもだけでなく、大人も対象としたネットワークであるが、B-c 地域はこどもの活動を中心とする手法をとる。

また、活動内容については、都市・郊外ではサッカー、バレーボール、等の単独スポーツ種目のみが選択肢となるが、農村では、種目と並び、町内運動会やウォークラリーといった多世代を対象とした活動、町内の自然資源を活用した屋外活動、他町村との合同イベント等も並列に扱っており、スポーツ活動を推進すると同時に、地域住民の交流の場づくり、その延長にある地域全体の活性化の一手段として活用している状況が伺える。

Ⅲ 農村地域における

自治体内・外ネットワークの実態

小規模小中学校のこども達のスポーツ環境充実を主眼におきつつ、多世代の住民の生涯学習としても、スポーツネットワーク構築に力を注ぐ B-b 地域を詳細にみていく。人口 5,974 人の当該地域は、高齢化率 32.5%と 3 割を超え、少子高齢化が進行する典型的な中山間及び過疎地域指定をうけている地域である。自治体内・外の連携組織及び活動内容のつながりを図 1 に、施設活用のネットワークを図 2 に示す（調査②より）。

多くの農村地域において、自治体と、小中学校組織、自治会、あるいは近隣自治体と比較的緊密な連携がある中で、B-b 地域は特に、十数年前からスポーツネットワーク構築を重視しており、連携の蓄積もあり分析し得る状況と判断される。

1. 町内ネットワークの実態

町内では、教育委員会主体に、複数地域の公民館・自治会等の地域の既存組織・小中学校組織との連携により、多様な活動内容の選択肢を増やすことを目指している。単独小中学校、あるいは単

独自治会域では、参加人数・指導者不足で成立しない種目や活動内容も、日常的に町内全域の活動体制をつくることで活動可能となっている。

活動内容は大きく、「人材育成」「交流」「資源活用」に分類することができ、多世代が競技者・指導者、運営者、支援者等、様々な立場で参加できる特徴を持つ。「人材育成」では、複数小学校が連携して行う放課後支援事業や、小学校が中学校の部活動と連携して行う地域スポーツクラブの活動等において、地域住民が様々なスポーツ種目の指導役、運営役となっている。地域の先輩が指導・運営を担当することで、こども達に対するスポーツ環境充実を図ると同時に、次世代の地域の担い手とかかわり育てる場を兼ねていると考えられる。

図 1 B-b 地域の町内・外ネットワーク

図 2 B-b 地域：施設活用のネットワーク

2. 町外ネットワークの効用

前述の町内のみの活動だけでは、施設機能や活動可能な種目に偏りが出てくるため、さらに、町外他市町村と協力・連携することで不足部分を補完している。具体的には、同郡内の近隣他町村と施設の共同利用・合同活動・指導者の相互派遣等の日常的なネットワークを構築している。郡内全域のスポーツ・交流イベントでは、複数市町村の住民が対象となるため参加数は増えイベント規模は大きくなり、中学校部活動では郡内複数校で種目ごとの競技人数を確保できるので、競技力向上を積極的に目指すことができる。

すなわち、地域住民が一つのスポーツクラブに所属、または行事に参加することで、学校区・自治会域内外・町内外の人々・組織と交流することになる。参加のレベルも、自身がスポーツ競技を行わなくとも、指導、運営、支援、応援といった間接的な関わり方により、他人とのつきあいを意識しなくとも内外の人々・組織との交流が促進されるしくみであると捉えられる。

徒歩圏の学校区・自治会域内のみの活動にとどまるのではなく、町内複数域・近隣市町村相互で連携し、不足機能を認め補完しあえる積極的なネットワーク構築により、過疎地域におけるスポーツ環境の充実が可能となっている。

IV 参加住民のスポーツ活動実態と

ネットワークによる地域づくり効果

次に、B-b 地域におけるネットワーク事業参加住民へのアンケート結果をもとに、活動参加実態と、参加による地域づくりへの効果を分析する（調査③より）。調査では、スポーツを通じた地域づくり効果に関する質問項目 4 分野 20 項目を設定し、4 段階評価を求めた（表 6）。ここでは各分野ごとに、個人的な項目から地域全体にかかわる内容を含むよう設定した。

1. 参加住民による地域づくり評価の特性

住民の属性による地域づくりへの評価特性を考察する。年代別では、全体的にみると、若年層の評価が低く高齢層の評価が高い。若年層は 6, 7 の項目が高いことから、ストレス発散や運動能力・技能の向上を行う個人的活動として捉え、スポーツを通じた地域づくり意識は低い。高齢層は地域づくりへの意識が高く、分野毎で 1→5, 6→10 と分野内で進むにつれて評価の値が高くなっており、他の年代に比べスポーツを個人のものとしてだけでなく、地域全体の中の活動として捉えている。

関わり方の違いでは“指導のみ行っている”が高い値を示し、“競技者としてのみ参加”は比較的

表6. 年代・関わり方の違いによる地域づくり効果への評価

		～20代	30代	40代	50代	60代～	選×指×	選○指×	選×指○	選○指○	平均	
人とのつながり (交流)	1	スポーツを通じて新たな仲間と出会う	・	・	・	・	+	+	+	+	0.89	
	2	親子や家族で交流を行うことができる	-----	+	・	+	+++	・	+++	+++	0.76	
	3	同年代の人と交流を行うことができる	・	+	・	・	+++	・	+++	+	0.70	
	4	地域の幅広い年齢層の人と交流を行うことができる	---	・	・	・	++++	・	+++	+	0.94	
	5	地域コミュニティ形成の場である	-	・	・	・	+++++	・	+++	+	0.75	
健康・スポーツ	6	ストレス発散を行うことができる	+	+	-	・	+	++	+++	+	1.02	
	7	運動能力・技能の向上につながる	+	・	・	-	+++	-	+++	+++	0.80	
	8	健康の保持・増進につながる	・	-	+	・	+	・	+++	++	1.13	
	9	様々なスポーツ活動を通じて地域が活気付く	---	---	・	・	+++++	・	-	+++++	+	0.79
	10	スポーツクラブでの活動が総合的に地域を元気にする	---	---	・	・	+++++	・	+	++++	+	0.79
子育て環境	11	子どもたちに様々なスポーツを体験させられる	-----	・	+	-	+++	・	-	++++	++++	1.08
	12	スポーツを通じて子どもたちに社会性やルールを身に付けさせられる	-----	・	・	・	+++	・	+	++++	++	1.12
	13	家庭とクラブが一体となって子どもたちを育てることができる	-----	・	・	・	+++++	・	---	+++++	+	0.89
	14	スポーツを通じて子どもたちが地域の中でのびのびと育つことができる	---	・	+	・	+++++	・	---	+++	++	1.03
	15	地域社会が「地域の子」を育てる体制ができている	-	・	・	-	+++++	・	-	++	---	0.57
地域環境	16	地域の様々な施設を利用・活用することができる	・	・	-	・	+++++	・	+	+	+	0.82
	17	上松町の自然資源を利用・活用することができる	---	・	・	・	+++++	+	---	-	+	0.48
	18	地域で行われている活動への関心が高まる	---	-	・	・	+++++	・	+	+	---	0.54
	19	郷土に対する愛着心を育むことができる	---	-	・	・	+++++	・	---	+++	+	0.62
	20	町外とのネットワークを結ぶことができる	-	・	・	・	+++++	・	-	+++++	-	0.48
～0.5:----- -0.5～-0.4:----- -0.4～-0.3:----- -0.3～-0.2:----- -0.2～-0.1:----- -0.1～0.1:----- +0.1～+0.2:----- +0.2～+0.3:----- +0.3～+0.4:----- +0.4～+0.5:----- +0.5～+0.6:----- (平均差)												
選×指×:競技者としても指導者としても関わっていない 選○指×:競技者としてのみ関わっている 選×指○:指導者としてのみ関わっている 選○指○:競技者としても指導者としても関わっている												
・平均値は「強く感じている」:+2 「感じている」:+1 「あまり感じない」:-1 「感じない」:-2 として点数化												

低い値であった。指導経験者でも“競技と指導の両方を行っている”と比較して、“指導のみを行っている”方が全体的に高い値を示し、特に地域全体に関する項目で差が生じた。競技者として関わる人は「スポーツを行う」という意識が強く、スポーツを通じた地域づくりへの意識はそれほど高くはない。一方で、指導経験者はスポーツを通じて地域づくりに高い意識を持ち、個人のスポーツ環境から地域づくりに展開することができると考えている。

2. 地域づくり評価からみたネットワーク効果

さらに、住民のスポーツ活動を通じた地域づくりに対する意識・意向の特徴を捉えるため、前述20指標を用いて主成分分析を行い、各住民の得点値を用いてクラスター分析(ウォード法)による類型化を行った(表7, 図3-5)。

I～III軸までを考察の対象とし、各軸を「子育て環境」「地域環境」「交流」重視軸と意味付け、交流重視の地域環境配慮型《t1》/子育て重視の地域環境配慮型《t2-1》/子育て重視・交流消極型《t2-2》/全てに消極型《t3》/子育て重視の地域環境消極型《t4-1》/交流重視の地域環境消極型《t4-2》の6類型に分類した。

表8, 図6より, 《t1》は地域環境・交流の評価が高く, 全体の42.7%を占める最も一般的な型である。《t2-1》は子育て環境への評価が高く, 小中学生の子どもを持つ生産年齢層を中心に構成されている。《t2-2》はスポーツ活動頻度が少ない男性が多く, 交流に消極的な型である。《t3》は子育て・地域環境・交流とも, 地域づくり全体の評価が低い。20代と50代に多く, 指導を行っていない集団である。《t4-1》は子育て環境への評価が高いものの, 地域環境への評価は低い。指導経験者の割合が最も高く, 40代が大半を占めている。《t4-2》は競技者の割合が高く, スポーツ活動状況も他類型と比較して高くなっている。

地域環境意識の高い《t1》《t2-1》を合わせると約65%を占め, 参加率はどちらも4割程度と, 多くの層がスポーツネットワークを享受していることが伺える。一方で残りの約35%は, 地域や交流

に消極的ながら参加率は2-3割という層である。

消極参加層のうち, 指導者人材の多い《t4-1》型が今後, 地域環境や交流に関心を寄せていくことで, 次世代育成機能が高まる可能性がある。さらに, 競技志向の《t4-2》は, 競技そのものの以外の地域づくり活動に負担意識や義務意識を抱えながら参加していることが考えられる。これらの点は, 今後の活動推進, 各種連携体制を継承していく中で配慮していくべき課題である。

表7. 主成分得点係数

指標	I 軸	II 軸	III 軸
1-1	-0.15	-0.04	0.42
1-2	0.20	-0.15	0.10
1-3	-0.10	0.01	0.41
1-4	-0.09	-0.04	0.42
1-5	0.07	-0.06	0.31
2-1	-0.07	-0.04	-0.10
2-2	-0.10	-0.07	-0.03
2-3	-0.05	-0.06	-0.09
2-4	0.08	0.07	-0.04
2-5	0.03	0.07	-0.05
3-1	0.22	-0.07	0.05
3-2	0.34	-0.16	-0.10
3-3	0.30	-0.07	-0.12
3-4	0.23	-0.01	-0.15
3-5	0.14	0.12	-0.04
4-1	-0.13	0.24	0.09
4-2	-0.18	0.41	-0.01
4-3	-0.09	0.24	-0.02
4-4	0.02	0.22	-0.10
4-5	-0.06	0.23	-0.04
固有値	4.31	3.62	2.43
寄与率(%)	21.5	39.6	51.8

(指標は表6の項目に対応)

図4. サンプルプロット図(I-II軸)

図3. クラスター樹形図

図5. サンプルプロット図(I-III軸)

表8. 類型の特徴

	男	女	子育て	競技者	指導	応援	全体	参加
t1	50.0	50.0	42.9	30.5	13.4	25.6	42.7	40.2
t2-1	56.8	40.9	57.5	22.7	11.4	38.6	22.9	38.6
t2-2	88.2	11.8	29.4	33.3	11.1	16.7	9.4	22.2
t3	66.7	33.3	16.7	33.3	0.0	13.3	7.8	20.0
t4-1	84.6	15.4	30.8	21.4	42.9	21.4	7.3	28.6
t4-2	50.5	50.5	27.3	57.9	5.3	15.8	9.9	31.6

図6. 類型の世代割合とスポーツ活動状況

V おわりに

本稿では、過疎農村地域において学校区・自治会域程度の範囲で行われるスポーツを通じた活動が、スポーツネットワークの構築・活用により地域内・外の連携を通して「交流」「人材育成」「資源活用」等の機能を兼ね備え、地域づくりの一手法として機能し得ることを明らかにした。

<立地比較による農村地域の特性>

学校区・自治会域程度の範囲内に充実した施設、人材を保有する都市・郊外では、域外との連携の必要性も薄く、ネットワーク構築には発展しない傾向が強い。一方、指導・参加人材や施設環境等が相対的に不利な農村地域では、域内・外の複数組織と日常的な連携を構築し、多年代を対象とし、総合的な生涯学習として活動展開する傾向にある。

<農村地域における内・外ネットワーク>

学校区・自治会域等の基本範囲内や町内・外組織との密なネットワークによって、地域住民は多様な人々や組織との交流が可能となり、一つの活動を通して無意識に内外の施設や自然等の地域資源を把握することにつながる。

<スポーツネットワークによる地域づくり効果>

年代や活動への関わり方の違いによる地域づくりへの意識をみると、高齢者や指導経験者は評価が高い傾向がある。すなわち、スポーツは競技者として個人的に健康や技術向上を目指す活動である一方で、これらの層は地域づくりにつながる場であるとも捉えている。さらに地域づくりに関する意識から住民を分類した結果、多くは地域づくり積極型に分類され、今後は、より質の高いスポーツネットワーク構築を進めるべき段階にあると捉えられた。一方で、地域づくりの鍵を握る指導者層が、今後、より地域に目を向けていくための

工夫、消極・義務的参加層への配慮については今後の課題である。

調査に協力していただいた各組織・団体、住民の皆様には心よりお礼申し上げます。

注釈

- 1) 小規模校の基準は明確なものではなく、小学校であれば「1校100人、1学年20人に満たない」から「複式学級（2学年計8人以下等）がある」等、統廃合検討の基準と合わせて自治体により異なる基準を設けている。
- 2) 公立小中学校の統廃合は急速に進行しており、1995-2005の10年間では全国公立校で小学校1,446校、中学校308校減少している（文科省データより）。特に近年、市町村合併に伴う農村過疎地域における統廃合は益々増加傾向にある。
- 3) 「総合型地域スポーツクラブ」とは、多種目・多世代・多志向・自主運営等の特徴を持ち、種目や世代、目的にとらわれることなく、地域の誰もが、継続的にスポーツに親しむことができるような環境づくり事業。文科省「スポーツ振興基本計画(H12.9)」により2001-2010までの計画期間内に全国の各市町村に少なくとも一つはクラブを育成することを目標とする。（文献6,7参照）
- 4) 調査①の対象事例については、文科省：総合型地域スポーツクラブとして活動している地域を文献6,7及びインターネット検索により全国からサンプリングを行い、多種目活動・多世代参加を実現していること、各種多様な組織が連携しネットワーク構築を行っていることを条件として9事例に絞り、詳細調査を行ったものである。

参考文献

- 1) 斎尾直子、藍澤宏 他（1999）：市町村の生涯学習推進におけるネットワーク形成とその効果に関する研究。日本建築学会計画系論文集，520，173-180
- 2) 中尾健一郎 他（1998）：地域スポーツ振興における総合型地域スポーツクラブの効果に関する研究。特に、クラブ員と地域社会との関係に着目して。日本体育学会大会，49，395
- 3) 長積仁 他（1999）：まちづくりとしての総合型地域スポーツクラブの役割。地域とクラブの統御に求められる「場」のマネジメント。徳島大学総合科学部人間科学研究，7，37-47
- 4) 富山浩三（2002）：スポーツを通じた大学の地域貢献プログラムの開発-教員・学生・地域社会との関係に着目して。体育・スポーツ教育研究，4，5-11
- 5) 斎尾直子、三重野暁宏（2005）：農村地域における地域運営まちづくり組織の特性と役割。農村計画学会農村計画論文集，7，217-222
- 6) 文部科学省 総合型地域スポーツクラブ HP
http://www.mext.go.jp/a_menu/03_b.htm
- 7) 日本体育協会 HP
<http://www.japan-sports.or.jp/local/>

Considering the future improvement of resident-circumstance in rural area, especially under populated area, sport-network services, which community-residents in all generation enjoy, communicate easily and lifelong-learning through a variety of sports, may be a means for community planning.

The present research and analysis on the sport-network services in depopulated rural areas where face to severe problems of Aging Society with a Declining Birthrate, intends to study on the effectiveness and potentiality of such sport-network services for rural community improvement.